

東日本大震災に関する農業農村工学会の取組み

東日本大震災で逝去された方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心からのお見舞いを申し上げます。

本会は、東日本大震災に対し、発生直後から災害対応特別委員会により調査団の派遣、提言、データの提供等を行っており、また、研究委員会により復興計画に関する提言に向けた調査を行っております。

これらの調査報告、提言等は学会誌、ホームページを通じて情報提供しております。

皆様からのさらなる情報提供、提言をお待ちしております。

会 告

| | |
|---|----|
| ○社団法人農業農村工学会第44回通常総会の報告 | 76 |
| ○平成23年度名誉会員の推挙 | 77 |
| ○研究部会長の交代について | 78 |
| ○平成24年度農業農村工学会賞候補の推薦について 締切10月31日 | 78 |
| ○サマーセミナー2011参加者募集！（再）開催日9月9、10日 | 79 |
| ○第35回水の週間「ウォーターフェア'11東京」農業用水の展示出展について（再）開催日7月29～31日 | 79 |
| ○平成23年度JABEE農学系分野審査講習会への参加のお願い（再）開催日7月30日 | 79 |
| ○平成23年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について（再）申請締切9月16日 | 80 |
| ○「農業農村工学会学術基金」への募金について | 80 |
| ○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い | 81 |
| ○学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集！！ 重要なお知らせ | 81 |
| ○平成24年の表紙写真の募集 夏季締切9月30日 | 82 |
| ○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！ | 83 |
| ○国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について | 83 |
| ○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと2009年1月から2011年12月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ | 84 |
| ○第54回東北支部研究発表会の開催について（第1報）発表締切9月20日 | 85 |
| ○第62回関東支部大会講演会・講習会（シンポジウム）・現地研修会の開催について（第2報）発表締切7月29日 | 85 |
| ○九州支部第92回講演会・ポスターセッション | |
| 第34回講習会・シンポジウム・現地見学会の開催について（第1報）開催日10月18、19日 | 86 |
| ○平成23年度資源循環研究部会研究発表会の発表者募集について 発表締切7月15日 | 86 |
| ○第21回農村道路研究部会研究集会・現地研修会の開催について（第2報）発表締切9月16日 | 87 |
| ○第24回水文・水環境研究部会シンポジウムの開催について 発表締切10月7日 | 88 |
| 学会記事 | 89 |

第79巻第8号予定

展望：「農」に向かう熱いまなざし：石田憲治

小特集：若者や消費者と農業・農村のかかわり

- ①奄美諸島・徳之島における新しい“農”の息吹き：近藤直樹ほか
- ②消費者の農業・農村への一時的な関わりに期待される役割：柿野 亘ほか
- ③サークル設立による大学生の農業・農村への関与方策：中里良一
- ④農商工連携による地域で支える農業の内発的発展：粟生田忠雄
- ⑤米購買行動にみる地域ブランド価値評価とその波及効果の検討：山下良平

技術レポート

北海道支部：地力の維持と低コストをめざした石礫破碎工法：後藤 准ほか

東北支部：農業用水路における落差工構造と騒音発生の関係：林 春奈ほか

関東支部：畑地灌漑用調整池における漏水防止対策の効果：江川春彦ほか

京都支部：ベントナイトシートを用いたため池の改修工事：青山正義

中国四国支部：腐敗果実の炭化処理による環境配慮型産地を目指して：廣岡信男ほか

九州支部：龍田隧道における変状と対策工計画：浜野幸一

小講座：穀物需要と潜在的農地：三石誠司

私のビジョン：高松利恵子

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

| 開催日 | 主催 | 行事名 | テーマ | 開催場所 | 掲載号 |
|-----------------|------------|--|--------------------------|------|-----------------------|
| 平成23年8月25, 26日 | 農村計画研究部会 | 第33回現地研修集会 | ⓑ 未来への農業水利施設の継承 | 弘前市 | 79巻2号 |
| 平成23年9月6~9日 | 大会運営委員会 | 平成23年度農業農村工学会大会講演会 | ⓑ | 福岡市 | 78巻12号 79巻1,3,4,6号 |
| 平成23年10月18, 19日 | 九州支部 | 第92回講演会・ポスターセッション、第34回講習会・シンポジウム・現地見学会 | ⓑ | 別府市 | 79巻7号 |
| 平成23年10月20日 | 資源循環研究部会 | 平成23年度研究発表会 | ⓑ 未来のエネルギー・水・食料資源の循環に向けて | 東京都 | 79巻7号 |
| 平成23年10月20, 21日 | 関東支部 | 第62回大会講演会 | ⓑ | 静岡市 | 79巻6,7号 |
| 平成23年10月20, 21日 | 中国四国支部 | 第66回講演会・第35回地方講習会 | ⓑ | 高知市 | 79巻6号 |
| 平成23年11月1, 2日 | 農村道路研究部会 | 第21回研究集会・現地研修会 | ⓑ 農道のストックマネジメント | 鹿児島市 | 79巻6,7号 |
| 平成23年11月10, 11日 | 農地保全研究部会 | 第32回研究集会 | ⓑ 中山間地域における農地保全と耕作放棄対策 | 甲府市 | 79巻4,6号 |
| 平成23年11月17, 18日 | 京都支部 | 第68回研究発表会 | ⓑ | 奈良市 | 79巻4,6号 |
| 平成23年11月24, 25日 | 水文・水環境研究部会 | 第24回シンポジウム | ⓑ 農林地および広域の水文・水環境 | 宇都宮市 | 79巻7号 |
| 平成23年11月26日 | 東北支部 | 第54回研究発表会 | ⓑ | 鶴岡市 | 79巻7号 |

社団法人農業農村工学会第44回通常総会の報告

第44回通常総会を開催したので、報告いたします。

- 日時 平成23年5月30日 14:00~15:00
- 場所 農業土木会館2階会議室
- 代議員現在数および定足数
現在数110名 定足数55名(ただし、定款の変更の場合は3/4以上83名)
- 出席代議員数 93名(内、出席5名、委任状出席88名)
- 定足数の確認等
総務部長が、定款第35条および第50条の規定に基づき定足数の充足による本通常総会の成立を確認した。
- 出席役員 河地利彦会長、小前隆美専務理事、佐々木清貴、八丁信正副監事
- 議長の選出
河地会長が仮議長となり、全員一致で齋藤公三代議員を議長に選出した。
- 議事録署名人の選出
議長が議事録署名人2名の選出について諮ったところ、天谷孝夫、小泉 健の両代議員を全員一致で選出した。
- 議事
 - 議案1 平成22年度事業報告
専務理事から同議案について、東日本大震災への対応等いくつかのトピックスを詳しく紹介した後、事業計画どおり事業を実施した旨の説明があった。審議の結果、提示案どおり、全員一致で可決した。
 - 議案2 平成22年度収支決算

専務理事から同議案について、収支計算書総括表をもとに一般会計、学術基金特別会計および技術者継続教育機構特別会計についての説明があった。審議の結果、提示案どおり、全員一致で可決した。

(3) 議案3 平成23年度事業計画

専務理事から同議案について、公益社団法人移行に向けた編成で事業計画を作成した旨の説明があり、審議の結果、提示案どおり、全員一致で可決した。

(4) 議案4 平成23年度収支予算

専務理事から同議案について、平成23年度から公益社団法人移行に向けて平成20年改訂の公益法人会計へ移行した旨の説明があった。審議の結果、提示案どおり、全員一致で可決した。

(5) 議案5 名誉会員の推挙

専務理事から同議案について、19名の方の名誉会員推挙の説明があり、審議の結果、提示案どおり、全員一致で可決した。

(6) 議案6 代議員の選任

専務理事より代議員候補者選出選挙結果の報告があり、審議の結果、提示案どおり、全員一致で選任した。

○所属支部：北海道

井上 京、宗岡寿美、鎌田貢次、高嶺 彰、皆川 猛、中島克彦、長谷部友二、堀井健次、前山啓二

○所属支部：東北

工藤 明、長利 洋、倉島栄一、嶋田 浩、北辻政文、

安中武幸, 永嶋善隆, 吉岡裕次, 油川潤一, 古川淳一, 須藤勝夫, 小山 純, 雫石和男, 清野弘久, 保坂龍弥, 大浦直司, 渡邊正弘, 松浦幹夫

○所属支部：関東

齊藤政満, 田野井雅彦, 小林厚司, 小泉 健, 岩村和平, 飯田 勤, 穂野和人, 片山 茂, 小倉敬翁, 龍野 功, 新井規郎, 有賀善太郎, 秦 久昭, 内田幸男, 川村文洋, 吉田修一郎, 小島信彦, 吉田貢士, 向後雄二, 松岡延浩, 渡邊文雄, 松井宏之, 長坂貞郎, 佐久間泰一, 松浦良和, 湯浅真介

○所属支部：京都

鈴木哲也, 早瀬吉雄, 千家正照, 石黒 覚, 金木亮一, 星野 敏, 工藤庸介, 國安法夫, 田上秀彦, 石川佳市, 斎藤瑞穂, 吉田健一, 山下悟志, 小竹哲郎, 後藤利行, 山本信介, 田中俊行, 若林 讓, 安本洋一, 長谷川博文, 福田 稔, 菅谷義寛, 高瀬光準, 渡邊昭弘

○所属支部：中国四国

猪迫耕二, 長東 勇, 諸泉利嗣, 山本晴彦, 角道弘文, 松尾芳雄, 松本伸介, 島田真司, 安部伸治, 塩澤賢一, 中村 均, 田中浩二, 柏原直樹, 森光俊樹, 松田宏茂, 寺尾和彦, 高尾武司, 石山啓二, 釣井利勝

○所属支部：九州

雑賀幸哉, 梅津正史, 青山健治, 鈴木和也, 大薄孝一, 加島孝一, 三好亨二, 又木雄二, 前田幹男, 大坪政美, 長 裕幸, 細川吉晴, 酒井一人

(7) 議案 7 定款の変更の案

専務理事から同議案について, 第217回理事会(22.12.20)で承認された成案を学会誌を通じて全会員に示し意見を求めた結果, 変更を要する意見はなかった。一方で, 内閣府公益認定委員会に対し行った質疑を通じて次の2点が判明した。

- ①第12条：社員の数をも110人程度とするためには, 「概ね正会員および名誉会員100人の中から1人の割合」に定める基礎会員数について「100人」を「80人」に変更するのが妥当。
 - ②附則第2項：移行後の最初の代表理事および業務執行理事の全員の氏名を掲名することが必要であり, 会長のほか, 新たに副会長3名および専務理事の名前の追加を要する。
- 第219回理事会の審議を経て提示された議案について,

て, 審議の結果, 提示案どおり, 全員一致で可決した。

(8) 議案 8 農業農村工学会細則の変更案

専務理事から同議案について, 会費納付等の事務処理の合理化を図るため会費の分納を認めないこととする第1条第2項の改正, この度の代議員の選出を「定款の変更の案」に基づく代議員選挙と同様の方法で行うために支部長による候補者の推薦を行わないこととする第4条第2項の改正, ならびに代議員が任期中に支部を異動しても資格を喪失しないための第5条の改正を内容とする現行細則の改正案を提示。さらには, 新定款施行後の細則を「公益社団農業農村工学会会費に関する細則」として準備する案を提示。代議員に関する規定が理事会決議事項となるため関係部分を削除し, これによって会費にかかる規定のみとなるため名称を改めるものとの説明があり, 審議の結果, 提示案どおり, 全員一致で可決した。

(9) 議案 9 役員の報酬等および費用に関する規程(案)

専務理事から同議案について, 公益社団法人の認可申請に必要な「役員の報酬等および費用に関する規程」を新たに定め, 同時に施行する「常勤役員の退職金規程」を準備する。現行の関係規程での規定ぶりを踏まえつつ, 報酬と費用の区分を明確にし, 常勤役員の報酬年額の上限を800万円とする旨の説明があり, 審議の結果, 提示案どおり, 全員一致で可決した。

(10) 議案 10 公益社団法人への移行認定申請に関する件

専務理事から同議案について, 「定款の変更の案」と予め整合するよう諸規程類の改正案を提示し, さらには, 新定款施行後の諸規程類を準備する案を提示するもの。前者に係る規程類(略称)は, ①運営規程, ②研究部会規程, ③学会賞授賞規程, ④委員会規程であり, 現行規程での規定ぶりを踏まえつつ, 学会賞の授賞対象を広げる変更を行ったほか, 条・項立てや表現を見直し, 変更部分およびその理由を明示した資料で説明。後者に係る規程類(略称)は, ①規則, ②運営規程, ③支部規程, ④研究部会規程, ⑤代議員選挙規程, ⑥機構規程, ⑦機構運営要領, ⑧会計処理規程, ⑨会計処理要領, ⑩学会賞授賞規程, ⑪学会賞運営要領, ⑫委員会規程であり, 現行規程での規定ぶりを踏まえつつ, 公益目的事業を明示したほか名称に「公益」を冠する変更, その他表現を見直し, 変更部分およびその理由を明示した旨の説明があり, 審議の結果, 提示案どおり, 全員一致で可決した。

平成 23 年度名誉会員の推挙

第44回通常総会の議により, 「名誉会員の推挙に関する内規」に則って第218回理事会で推挙された次の正会員(敬称略)を名誉会員に推挙した。これにより名誉会員の現在数は, 221名となった。

安部優吉, 荒ヶ田国和, 伊藤 卓, 井上淳二, 岩本莊太, 太田豊治, 大橋欣治, 古賀英祐, 高山豊次, 田中忠次, 辻 厚志, 中川襄二, 長町 博, 萩原泰朗, 早坂和夫, 福岡大一, 堀井健次, 満岡重一, 山崎紘一

研究部会長の交代について

平成 23 年 5 月 27 日付で下記研究部会長が交代しました。 新部会長 広田 純一 (岩手大学農学部教授)

記

前部会長 石田 憲治

研究部会名 農村計画研究部会

平成 24 年度農業農村工学会賞候補の推薦について

平成 24 年度の農業農村工学会賞 (上野賞, 沢田賞を除く) 締切りは, 平成 23 年 10 月末日です。推薦書様式および, 授賞規程は学会 HP をご参照下さい。

平成 24 年度 農業農村工学会賞 募集要項

| 賞の種類 | 学術賞 | 奨励賞 | | 優秀賞 | | |
|-------------|---|---|---|---|---|---|
| | | 研究奨励賞 | 技術奨励賞 | 優秀論文賞 | 優秀技術賞 | 優秀技術リポート賞 |
| 賞の趣旨 | 農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績 | 農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績 | 農業農村工学に関する計画, 設計, 施工, 管理等の技術業績 | 農業農村工学に関する単独の研究業績 | 農業農村工学に関する計画, 設計, 施工, 管理等の単独の技術業績 | 農業農村工学に関する単独の技術リポート業績 |
| 賞の対象範囲および期間 | 平成 18 年 10 月から平成 23 年 9 月までに, 本学会の刊行物に発表された論文, 報文等を原則とする。ただし, 同一の課題につきそれ以前に発表されたものは, 一連の業績として対象とすることができる。 | 平成 20 年 10 月から平成 23 年 9 月までに, 本学会の刊行物に発表された論文, 報文等を原則とする。ただし, 同一の課題につきそれ以前に発表されたものは, 一連の業績として対象とすることができる。 | 平成 20 年 10 月から平成 23 年 9 月までに, 本学会の刊行物に発表された論文, 報文等を原則とする。ただし, 同一の課題につきそれ以前に発表されたものは, 一連の業績として対象とすることができる。 | 平成 22 年 10 月から平成 23 年 9 月までに, 本学会の刊行物に発表された論文, 報文等を原則とする。 | 平成 21 年 10 月から平成 23 年 9 月までに, 本学会の刊行物に発表された論文, 報文等を原則とする。主として現場調査資料, 現場技術報告書から選ぶ。 | 平成 18 年 10 月から平成 23 年 9 月までに, 本学会の刊行物に発表された技術リポート |
| 受賞候補者 | 個人 | | | 個人または組織・団体 | | 個人 |
| 推薦の方法 | 正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。 | | | 正会員の自薦, 他薦または学会誌・論文集の編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。 | | |

| 賞の種類 | 著作賞 | 教育賞 | 環境賞 | 歴史・文化賞 | 地域貢献賞 | 国際貢献賞 | メディア賞 | 功労賞 |
|-------------|--|---|--|---|---------------------------------------|---|---|---|
| 賞の趣旨 | 一般に市販されている図書の中で, 農業農村工学に関する学術または技術を広く推し紹介することに顕著な貢献をなしたと認められる業績 | 農業農村工学教育, 技術者の継続教育など賞賛の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績 | 農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など, 美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行いもしくは管理・保全活動を行った業績 | 農業農村工学に関する歴史・文化を広く紹介, あるいは研究分析の業績 | 農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績 | 農業農村工学に関する学術・技術についての, 国際的な交流・調査研究で優れた業績 | 農業農村工学を紹介した優れたパンフレット, ビデオ作品, 教材スライド, 映画等 | 長年にわたる, 地道な教育・研究または実務の積重ねを通じて, 農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大な功労のあったと認められる者 |
| 賞の対象範囲および期間 | 平成 13 年 10 月から平成 23 年 9 月までに出版されている一般の図書。ただし, ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また, 改訂版にあたっては全面改訂したもののみを対象とする。 | 平成 13 年 10 月から平成 23 年 9 月までの業績を対象とする。 | 平成 21 年 10 月から平成 23 年 9 月までに本学会の刊行物または, 関係する図書に発表されたもの。また, 完工した建築物, 維持保全管理活動等も対象とする。 | 平成 18 年 10 月から平成 23 年 9 月までの業績を対象とする。 | 平成 18 年 10 月から平成 23 年 9 月までの活動を対象とする。 | 平成 18 年 10 月から平成 23 年 9 月までの活動を対象とする。 | 平成 21 年 10 月から平成 23 年 9 月までに発表された, 農業農村工学に関連した作品を対象とする。 | 平成 23 年度末に 65 歳以上に達している個人 |
| 受賞候補者 | 著者 | 個人または組織・団体 | | | 個人 | 個人または組織・団体 | 個人 | |
| 推薦の方法 | 正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。 | 正会員の自薦, 他薦または技術者継続教育機構 CPD 運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。 | 正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。 | 正会員の自薦, 他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。 | | 正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。 | 正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。 | |

| | |
|-------|---|
| 選考の方法 | 学会賞選考委員会において行う |
| 賞の決定 | 理事会において行う |
| 表彰 | 農業農村工学会大会講演会において会長が授与する |
| 推薦締切 | 平成 23 年 10 月末日 |
| 提出先 | 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛 |

サマーセミナー 2011 参加者募集！（再）

2011 年度テーマ「九州での農業工学の現状を知り将来の農業工学のあり方について考える」

みなさんサマーセミナーをご存じですか？ サマーセミナーとは、農業農村工学を学ぶ学生を対象に行う、学生・院生自主企画のセミナーです。今年で 14 回目の開催となり、毎年北から南までさまざまな大学の学生が参加しています。

今回は九州諫早湾を舞台とし「九州での農業工学の現状を知り将来の農業工学のあり方について考える」をテーマに掲げています。農業農村工学の歴史、現状、そして未来について、これからの農業農村工学を担う私たち学生がしっかりと考えていかねばなりません。研究室を飛び出し、普段関わらない人や場所に触れ、凝り固まった頭を柔らかくしてこれからの農業農村工学について一緒に議論してみませんか？ 皆様のご参加を是非お待ちしております！

1. 主 催

農業農村工学サマーセミナー実行委員会

- ・吉野亜香利（東京大学大学院農学生命科学研究科）
- ・田畑 俊範（九州大学大学院生物資源環境科学府）
- ・橋本 紗希（茨城大学大学院農学研究科）
- ・山崎 琢平（東京大学大学院農学生命科学研究科）

2. 日 時 2011 年 9 月 9 日（金）～10 日（土）

3. 開催地（予定）

福岡県周辺（研修地、宿泊地等は現在検討中）

4. 参加費用（宿泊費等） 10,000 円前後

5. 詳細・参加申込み

申込みは以下のホームページからお願いします。詳細を随時公開する予定です。

URL：<https://sites.google.com/site/jsidress2011/>

6. 問合せ

E-mail：summerseminar2011@gmail.com

第 35 回水の週間「ウォーターフェア '11 東京」農業用水の展示出展について（再）

農業用水展示実行委員会

国土交通省、東京都、水の週間実行委員会主催「ウォーターフェア '11 東京」は例年同様「水の週間」の一つのイベントとして行われます。今年も「水の展示会」に農業用水部門として、関係諸団体の協力を得て、農業農村工学会が農業用水展示実行委員会を組織し、昨年までと同様に展示の準備を進め出展することとなりました。

多くの方の来場をお待ちしております。

全体テーマ 水の恵み～大震災を機に考える～

農業用水テーマ 次世代に引き継ぐ疏水の恵み

展示の場所 科学技術館（千代田区北の丸公園 2-1）

期 日 平成 23 年 7 月 29 日（金）～31 日（日）
9：30～16：50（初日のみ 10：30～）

平成 23 年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加のお願い（再）

技術者教育認定に関する検討委員会

技術者継続教育プログラム認定申請中



本年も JABEE 農学系分野審査講習会が 7 月 30 日に東京大学弥生講堂にて開催されます。多くの皆様の参加を期待しております。本講習会は JABEE 公認で、講習会の参加修了者は JABEE 審査員候補者として登録され、本審査のオブザーバー参加を経て審査員の資格が得られます。奮って、ご参加下さい。（なお、プログラム、参加申込書等、詳細は決定次第農業農村工学会ホームページに掲載しています。）

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学農学部内

<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/>

講習会および情報交換会参加費・申込方法については農業農村工学会ホームページでご確認のうえ、申込書および審査員登録票（電子メール版）をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、下記へ電子メールでお申し込み下さい。

1. 日 時 平成 23 年 7 月 30 日（土）9：25～17：30
（17：30 より情報交換会あり）

3. 申 込 先 農業農村工学会事務局 花塚賀央
E-mail：hanatsuka@jsidre.or.jp

2. 場 所 東京大学弥生講堂

4. 申込締切 平成 23 年 7 月 20 日（水）

平成 23 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について（再）

研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度（原則1件20万円以内）です。

本年度の申請締切は平成23年9月16日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成金の配布グループと金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。

4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

(ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として3名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成23年9月16日（金）

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長宛

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名）
- (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属
- (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

「農業農村工学会学術基金」への募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成22年度までに56件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地で発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿（2年ごと更新）に記載して、緊急災害時等の場合に現地調査を行っていただきます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則 2～3 日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額 300 万円）。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03-3435-8494、E-mail : saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数のご参加をお待ちしております。

なお、登録いただいた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

行事企画委員会

技術者継続教育機構 CPD 運営委員会通信教育部会

行事企画委員会では、継続教育機構の個人登録者となっている学会員が、CPD 単位取得を在宅で手軽に取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より学会誌上を通じて「CPD 通信教育」を実施しています。これまでの実績として、毎回多くの解答者が 2 CPD ポイントを取得しており、自己学習での年間最大 10 CPD ポイントとは別に、通信教育分として年間最大 24 CPD ポイントを取得するチャンスとなっています。まずはご登録をいただき、是非、通信教育にご解答をお寄せ下さい。

1. 参加資格

参加資格条件としては、農業農村工学会の個人会員であり、かつ継続教育機構の CPD 個人登録者に限ります。学会へのご入会や CPD 個人登録をされていない方は農業農村工学会と継続教育機構のホームページから入会申込書、登録申込書をダウンロードし、それぞれ手続きを行って下さい。

2. 参加登録方法と登録受付の時期

参加登録は継続教育機構のホームページにある「通信教育参加申込書」(<http://www.jsidre.or.jp/cpd/tushinkyouikukaitou/moushikomipeji.html>) に必要事項を記入し、メール (kaito@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX(03-5777-2099) で送付して下さい。なお、参加登録の受付は随時行っています。

3. 出題方法

出題は 3 カ月前に発刊された学会誌の報文等の事実的な内容から、CPD 運営委員会通信教育部会が作成し学会誌上に掲載します。問題は択一式で、毎回 10 問を出題します。

4. 解答方法及解答期限

解答の方法としては、継続教育機構のホームページにある「通信教育解答用紙」(<http://www.jsidre.or.jp/cpd/tushinkyouikukaitou/kaitoupeji.html>) をダウンロードし、正解と思う番号および必要事項を記入して、メール (kaito@cpd.jsidre.or.jp) で送付して下さい。なお、解答期限が、8月号掲載の第71回通信教育問題より「問題掲載号の翌月末日まで」(例：8月号掲載分の場合、9月30日まで) となります。期限を過ぎた解答の受付は一切できませんので、十分ご注意下さい。

5. CPD ポイントの採点とポイント集計年度区分

採点の結果、7割以上正解で 1.5 CPD ポイント、満点で 2 CPD ポイントの取得となり、前年度の2月号出題分から当該年度の1月号出題分までの12カ月分を、当該年度の通信教育での CPD 取得ポイント分として取得者個々の継続教育記録に自動登録いたします。採点後のポイント取得結果は、(下記7.で取得結果送付を希望する方以外は) 毎年8月頃に送付する「CPD 取得一覧表」でお知らせします。それまでは出題の翌々

月に学会誌上で公表する「解答」から、自己採点をお願いします。なお、解答は技術者倫理に則り、自らの責任で作成して下さい。

6. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

7. CPD 通信教育参加者の特典

毎年4月に、前年度分(2月号～翌1月号分)の通信教育で取得したCPD採点結果を算出します。採点結果の通知が必要な通信教育登録者は、事前に農業農村工学会継続教育部までご連絡下さい。また、5月上旬から通信教育で取得したポイント分についての「CPD取得証明書」を希望者に有料で発行いたします。

平成24年の表紙写真の募集

学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成24年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。平成24年分の募集からテーマが変わりました。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号

学会誌第80巻(平成24年1～12月号)

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEGファインモードまたはTIFFモードに設定)撮影して下さい(サイズは六ツ切)。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 夏季 平成23年9月30日

6. 審査 審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第80巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成24年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金(1点につき3万円)をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History(表紙写真由来)」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History(表紙写真由来)」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用权

採用作品の使用权は(社)農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ(フィルム、使用カメラ等)、対象物の固有名称(固有名称)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: suido@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」，「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上，ご投稿下さい。

学会誌 79, 80 巻の小特集のテーマ

| 小 特 集 テ ー マ | 要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内) |
|--------------------------------------|------------------------------|
| 79 巻 9 号 農業土木遺構にみる技術の粋 (仮) | 公募終了 |
| 10 号 愛知用水通水 50 周年 (仮) | 公募なし |
| 11 号 再生水の農業利用の動向と課題 (仮) | 公募なし |
| 12 号 地球環境 (地球温暖化) 問題への取組みと今後の課題 (仮) | 公募なし |
| 80 巻 1 号 農業農村工学分野における戦略的アウトリーチ活動 (仮) | 平成 23 年 8 月 25 日 |
| 2 号 世界的な塩害に関する動向 (仮) | 平成 23 年 9 月 22 日 |

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても，広く募集しておりますので，学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお，小特集テーマが仮題となっているものは，予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は，刷上り 4 ページとなっておりますので，ご執筆の際には厳守いただきますよう，お願いいたし

ます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
(社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて
☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
E-mail : henshu@jsidre.or.jp

80 巻 1 号テーマ「農業農村工学分野における戦略的アウトリーチ活動」(仮)

農業農村工学分野におけるアウトリーチとは，普段，農業農村工学分野の施設・事業・研究に触れる機会の少ない一般市民に対して行われる普及活動である。近年，公共性の高い基盤整備事業や大学および研究機関も，国民に対してその事業や教育・研究内容についての説明責任を求められることが多くなった。一方国民は，報道などの一面的な情報によって農業農村工学の果たしている役割を正確に理解しているとは言い難い状況にある。

このような背景において，国や県などの地方自治体，土地改良区，大学および研究機関では，あらゆる機会を利用してアウトリーチ活動が展開されている。中でも，「田んぼの学校」支援センターがサポートする田んぼの学校や，福島県土地改良事業団体連合会が行っている「水土里の案内人」活動などは，農業農村工学分野を広くアウトリーチしている活動であるといえ

る。農業農村工学分野以外でも，(財)ダム協会が認定している「ダムマイスター」，山形大学が中心となっている「星のソムリエ」資格認定制度などは，特定の知識や技術を一般の国民に戦略的にアウトリーチしている活動であるといえる。さらに，環境省の「いきものみつけ」のような WEB を活用した情報収集発信システムの構築なども，若年層のインターネットによる情報収集依存度の高まりを踏まえると，今後のアウトリーチ活動に重要な意味を持つてくると考えられる。

本特集では，このようなアウトリーチ活動の手法と継続的なアウトリーチ活動による効果と課題を明らかにする報告，各機関におけるアウトリーチ活動の連携を目的とした活動とその効果と課題を明らかにする報告，WEB を活用した情報収集発信システムの構築に関する研究論文を広く募集いたします。

国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) は，機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは，モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文，技術論文が多数掲載されますので，研究者のみ

ならず，各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方が国際学会へ入会されることを希望します。

掲載論文の分野は，次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理，水収支，灌漑施設，栽培管理)
- ② 排水 (排水管理，排水施設)

- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
 - ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
 - ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
 - ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
 - ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
 - ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
 - ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
 - ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)
- 水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として,

皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発行スケジュール: 年4回 (3, 6, 8, 12月)

国際学会会費: 正会員 12,000 円 (農業農村工学会員に限る)

学生会員 (院生含む) 8,500 円 (農業農村工学会員に限る)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 中村あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009年1月から2011年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) の機関誌, 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は, 2011年6月末に Vol.9, No.2 が発行されました。

本ジャーナルは 2009年12月より, トムソン・ロイター社の SCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に, SCIE の IF (Impact Factor) が利用されており, 本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価を得ております。

また, 世界13カ国から Editor (23名) を選出することにより, 国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし, さらに国際的な流通を考慮して, 国際出版社として著名な Springer-Verlag 社からの刊行です。掲載論文は, Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに, 年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが, 投稿料, 掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局 (投稿先) は, 台湾です。なお, 2010年10月1日付で, これまで編集長を勤めていただいた中野芳輔先生から, 溝口 勝先生に編集長の交代がありました。

投稿先: Yu-Pin Lin, Ph. D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No. 1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R. O. C)

E-mail: yplin@ntu.edu.tw

TEL: +8862-2-3366-3467 FAX: +8862-2-2363-5854

(During Jan. 2009 to Dec. 2011)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は, 水田農業地帯における灌漑と排水, 土壌保全, 土地資源や水資源の保全と管理, 水田の多面的機能, 農業政策, 地域計画, バイオ環境システム, 生態系の保全, 水田保全, 田畑輪換等である。

編集体制

• Editor-in-Chief: Dr. Masaru Mizoguchi (Japan)

Graduate School of Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

• Editors 13カ国から23名

• Editing Board 35名

• Managing Editors

Chief Managing Editor: Prof. Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

Prof. Dr. Yoshiyuki SHINOGI

Faculty of Agriculture, Kyushu University, Fukuoka, Japan

Prof. Dr. Haruhiko HORINO

Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Osaka, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan

Prof. Dr. Jin-Yong CHOI

Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Seoul, Korea

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

投稿資格: 筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等: <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

第 54 回東北支部研究発表会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



- | | | |
|--------------------|---|--|
| 1. 期 日 | 平成 23 年 11 月 26 日 (土) | 秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科 近藤 |
| 2. 会 場 | 山形県鶴岡市 山形大学農学部 〒997-8555 鶴岡市若葉町 1-23 | 〒010-0444 秋田県南秋田郡大潟村字南 2-2 ☎0185-45-3918 FAX 0185-45-2377 |
| 3. 研究発表の申込み・原稿受付期間 | 平成 23 年 8 月 10 日 (水) ~ 9 月 20 日 (火) | E-mail : t_kondo@akita-pu.ac.jp |
| 4. 問合せ先 | | 5. その他 詳細は本誌 8 月号に掲載予定です。 |

第 62 回関東支部大会講演会・講習会 (シンポジウム) ・現地研修会の開催について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



- | | |
|--|---|
| 1. 主催 (社) 農業農村工学会関東支部 後援 農林水産省関東農政局, 静岡県 | (4) 会費の納入方法 参加申込みと同時に全額前納して下さい。なお、キャンセル・変更については、8 月 31 日以前のお申し出に限りまして、振込手数料等の実費を差引き返金いたします。9 月 1 日以降のキャンセルにつきましては応じかねますので、ご了承のほどよろしく願います。 |
| 2. 支部大会講演会・講習会 (シンポジウム) | 【留意事項】 振込手数料は、各自にてご負担願います。 |
| (1) 日時 平成 23 年 10 月 20 日 (木) | 【振込先】 スルガ銀行静岡県庁支店 店番号 : 724 口座番号 : 2883935 口座名義 : 農業農村工学会関東支部研修会運営委員会 代表 藤田 譲司 (ノウギョウノウソウコウガツカイカントウ シブケンシユウカイウンエイインカイ ダイヒョウ フジタジヨウジ) |
| ・受付 9 : 30 ~ 10 : 30 | *振込元が申込書と照合できるように、所属・氏名等は必ずご記入願います。* |
| ・講演会 11 : 00 ~ 15 : 00 (昼食 12 : 00 ~ 13 : 00) | (5) 申込先および問合せ先 (事務局) 〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町 9-6 静岡県交通基盤部農地局農地計画課 (担当 : 櫻井, 望月) ☎054-221-2723 (直通) FAX 054-221-2449 E-mail : noukei@pref.shizuoka.lg.jp |
| ・講習会 (シンポジウム) 15 : 10 ~ 16 : 20 | (6) 申込様式 申込み様式は、静岡県ホームページ上に掲載してありますので、ファイルをダウンロードして御利用いただくことも可能です。 http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-610/nouchikyoku.html または、「静岡県庁 農地局」で検索 |
| ・授賞式 16 : 30 ~ 17 : 00 | |
| (2) 会場 静岡市東部勤労者福祉センター 「清水テルサ」 静岡県静岡市清水区島崎町 223 | |
| ・受付 1 階ホール前 | |
| ・講演会 1 階ホール, 6 階研修室, 7 階会議室 | |
| ・講習会 (シンポジウム) 1 階ホール | |
| ・授賞式 1 階ホール | |
| 3. 情報交換会 | |
| (1) 日時 平成 23 年 10 月 20 日 (木) 17 : 30 ~ 19 : 30 | |
| (2) 会場 8 階 レストラン「ブランオーシャン」 | |
| 4. 現地研修会 | |
| (1) 日時 平成 23 年 10 月 21 日 (金) 9 : 30 ~ 15 : 00 (予定) | |
| (2) 場所 大規模樹園地整備 新丹谷地区 ほか | |
| (3) 集合場所 JR 清水駅東口 (9 : 30 集合) | |
| (4) 解散場所 JR 静岡駅 | |
| 5. 参加申込方法 | |
| (1) 申込み 「第 62 回農業農村工学会関東支部大会参加申込書」に必要事項をご記入し、所属機関ごとに取りまとめのうえ、E-mail または FAX、郵送にてお申し込み下さい。 | |
| (2) 申込期限 平成 23 年 8 月 31 日 (水) 必着 | |
| (3) 参加費 | |
| ・講演会, シンポジウム 3,000 円 | |
| ・現地研修会 1,000 円 | |
| ・情報交換会 5,000 円 | |

第62回農業農村工学会関東支部大会参加申込書

| | | | |
|--------|--|--------|--|
| 所属 | | 電話番号 | |
| 申込者氏名 | | FAX 番号 | |
| E-mail | | | |
| 所属所在地 | | | |

参加者名および参加費用

| ふりがな 氏 名 | 1日目 講演会等 ¥3,000 ○×を記載 | 1日目 情報交換会 ¥5,000 ○×を記載 | 2日目 現地研修会 ¥1,000- ※別途昼食 代を当日徴 収 ○×を記載 | 計 | 1日目 昼食 ¥1,000- ※代金は当 日徴収 ○×を記載 |
|-------------|--------------------------------|---------------------------------|---|---|---|
| | | | | | |
| | | | | 計 | ¥ |

6. 講演発表者申込方法

(1) 申込み

農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/>)の「支部講演会投稿票」の「支部講演会の投稿票について」に従って必要事項を記載し、(5)あてにメール送信して下さい。

(2) 申込期限 平成23年7月29日(金)

(3) 原稿締切 平成23年8月31日(水)

(4) 原稿枚数 2枚または4枚

(5) 申込先および問合せ先 5.(5)と同じ

(6) 講演時間 質疑応答を含め15分程度

(7) その他

東日本大震災被災地の復興に向けた農業農村工学の貢献、農業水利施設のストックマネジメント、自然エネルギー、景観等の幅広い分野からの応募も歓迎いたします。

7. その他

(1) 会場への案内

静岡市東部勤労者福祉センター「清水テルサ」

☎054-355-3111 Web: <http://terra.san>

JR東海道本線「清水」駅から徒歩5分

※無料駐車場はございませんので、公共交通機関を御利用下さい。

(2) 昼食について

会場(清水テルサ)周辺には、飲食店が少ないため、お弁当の注文を受け付けます。ご希望の方は参加申込書に記載の上、当日、受付にて代金をお支払い下さい。

(3) 詳細は静岡県公式ホームページをご確認下さい。

(4) 宿泊について

事務局では、宿泊の斡旋・手配等はいたしませんので、ご了承下さい。

九州支部第92回講演会・ポスターセッション
第34回講習会・シンポジウム・現地見学会の開催について(第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日

(1) 講演会・ポスターセッション

平成23年10月18日(火)

(2) 講習会・シンポジウム・現地見学会

平成23年10月19日(水)

2. 会 場

別府国際コンベンションセンター(ビーコンプラザ)

〒874-0828 別府市山の手町12-1 ☎0977-26-7111

3. プログラム、申込み方法等

詳細は第2報でお知らせします。

4. 問合せ先

大分県農林水産部工事技術管理室 牧, 黒岩

〒870-8501 大分市大手町3-1-1

☎097-506-3533 FAX 097-506-1757

平成23年度資源循環研究部会研究発表会の発表者募集について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



資源循環研究部会では、農村における水循環やバイオマス利用に係る技術の発展および技術者・研究者等の学術交流を目的として、研究発表会を開催することとしています。

今後の地域づくりには資源循環技術が欠かせない、との考えから、「未来のエネルギー・水・食料資源の循環に向けて」と題して、最新の調査・研究成果の発表ならびに事例報告を募ります。

是非、この機会をご活用いただきたく、皆様のご応募をお待ちしています。

1. 開催日(予定) 平成23年10月20日(木)10:00~16:00

2. 会 場 東京ビッグサイト

3. 内 容

<テーマ>未来のエネルギー・水・食料資源の循環に向けて

◎基調講演

◎研究発表ならびに事例報告

(農村における水やバイオマス資源等の循環および利活用に係る調査・研究の最新成果、先駆的な取組み事例)

4. 研究発表ならびに事例報告の要領

(1) 資格

農業農村工学会資源循環研究部会メンバーとします。

(今回の発表・報告に併せたメンバー登録(無料)ができません。)

(2) 内容

◎総数 10 課題程度とします。

①研究発表：調査・研究の最新成果

論文作成：研究発表会当日，論文集を作成し配布します。

表彰：優秀な論文については，部会長賞を与え，発表会場で表彰します。

留意事項：研究発表にかかる論文については査読委員会にて査読を行い，場合によっては加筆修正をお願いする場合があります。

②事例報告：先駆的な取組み事例

留意事項：事例報告にかかる論文については査読委員会による査読を行いませんが，事務局などの判断により修正をお願いする場合があります。

(3)発表方法

①個人発表とし，1 人（共同研究の場合は口頭発表者）1 課題とします。

②発表を補助する映像機器として，パソコンおよびプロジェクターを用意します。

③研究発表の発表時間は，20 分程度/人（発表 17 分，質疑応答 3 分程度）の予定です。

5. 申込方法

(1) 発表申込み

①申込用紙の提出をもって申込みとみなします。

申込用紙は研究部会 HP よりダウンロードして下さい。

②原則として電子メールにて受け付けます。受理次第，当方から確認のメールを送信させていただきます。

③締切は平成 23 年 7 月 15 日（金）とします。

④なるべく多くの方に発表してもらおう考えがありますが，応募総数，内容によってお断りする場合があります。応募者へは 7 月中旬に通知する予定です。

(2) 投稿

①研究発表が決定した応募者には発表論文を作成していただきます。論文集原稿作成要領を研究部会 HP に掲載していますので確認願います。また，事例報告が決定した応募者には報告レポートを作成していただきます（様式等方法については別途ご連絡します）。

②投稿締切は平成 23 年 8 月 12 日（金）とします。

(3) 申込み・問合せ先

農業農村工学会資源循環研究部会
事務局：（社）地域環境資源センター
集落排水部企画班（担当：濱井）

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

☎03-3432-6282 FAX 03-3432-0743

E-mail：sigen@jarus.or.jp

研究部会 HP：http://www.jarus.or.jp/sigen/

第 21 回農村道路研究部会研究集会・現地研修会の開催について（第 2 報）

特定課題「農道のストックマネジメント」

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



農村道路研究部会では，以下のとおり第 21 回研究集会および現地研修会を開催しますので，ご案内いたします。多くの皆様の参加をお待ちしております。

1. 期 日 平成 23 年 11 月 1 日（火） 研究集会
平成 23 年 11 月 2 日（水） 現地研修会

2. 研究集会

- (1) 日時：11 月 1 日（火）13：00～17：00（受付開始 12：30）
(2) 会場：かごしま県民交流センター
〒892-0816 鹿児島市山下町 14-50
☎099-221-6600
URL：http://www.kagoshima-pac.jp/
(3) 発表内容
①招待論文：特定課題
②研究論文：特定課題および農村道路に関わる研究課題
③技術報文：農村道路に関わる計画・調査・施工の自由課題
(4) 参加費：4,000 円/人

3. 現地研修会

- (1) 日時：11 月 2 日（水）9：00～15：00（予定）
(2) 研修地：鹿児島県内の農道など
（詳細は次号以降に掲載予定）
(3) 参加費：3,000 円/人
（会費には昼食代 1,000 円が含まれます。）

4. 発表申込み

- (1) 研究集会で研究論文，技術報文を発表するためには，発表申込書の提出が必要になります。発表申込書および原稿作成要領は，農村道路研究部会の WEB ページからダウンロードすることができます。
(2) 発表申込みは，発表申込書に必要事項を記入の上，E-mail に添付して申込先に送信して下さい。発表申込みを行う際のメールの表題は「農村道路研究部会研究集会の発表申込み」として下さい。
(3) 発表申込書の提出締切は 9 月 16 日（金）です。
一方，原稿の提出締切は 10 月 3 日（月）です。

5. 参加申込み

- (1) 参加申込みは，参加申込書を農村道路研究部会の WEB

ページからダウンロードし、必要事項を記入の上、E-mail に添付して申込先に送信して下さい。参加申込みを行う際のメールの表題は「農村道路研究部会研究集会の参加申込み」として下さい。

- (2) 参加申込書の提出締切は 10 月 14 日 (金) です。
- (3) 参加費は、原則として参加申込みと同時に以下の銀行口座に納金 (振込手数料は参加者でご負担) 願います。やむを得ない理由がある場合には現地支払い、事後振込みも可能ですので、参加申込みの際に事務局までご連絡下さい。

銀行名：ゆうちょ銀行 五二八支店 (店番号 528)

口座番号：普通預金 0642789

口座名：農業農村工学会農村道路研究部会

6. 発表・参加申込先および原稿提出先

鳥取大学農学部 緒方英彦

〒680-8553 鳥取市湖山町南 4-101

☎0857-31-5397 E-mail : ogata@muses.tottori-u.ac.jp

7. 部会 WEB ページ

農村道路研究部会の WEB ページは、以下の URL です。

<http://www.nodai.ac.jp/eng/original/hyse/JSIDRE/AnnualMeeting.html>

また、農業農村工学会の WEB ページ「<http://www.jsidre.or.jp>」の中の「研究部会」→「農村道路研究部会」からでも行くことができます。

8. 宿 泊

各自で手配下さい。

9. その他

プログラム等は次号以降に掲載予定です。

また部会の WEB ページにも随時掲載いたします。

第 24 回水文・水環境研究部会シンポジウムの開催について

技術者継続教育認定プログラム申請中



水文・水環境研究部会では、第 24 回シンポジウムを開催します。講演申込み、参加申込みについては下記のとおりです。

1. 期 日 平成 23 年 11 月 24 日 (木), 25 日 (金)
2. 会 場 宇都宮大学峰キャンパス大学会館
(〒321-8505 宇都宮市峰町 350)
会場へのアクセスは、<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/map/map01.html> をご覧下さい。
3. プログラム (予定)
 - 11 月 24 日 (木)
 - 13:00~13:30 受付
 - 13:30~17:30 研究会
 - 18:00~20:00 情報交換会
 - 11 月 25 日 (金)
 - 9:00~12:00 研究会
4. 講演内容 農林地および広域の水文・水環境
5. 講演時間 1 課題 30 分程度 (質疑応答も含む)
6. 参加費 研究会参加費 2,000 円
情報交換会参加費 5,000 円 (予定)
7. 講演申込み
一般講演を募集します。講演原稿は 10 ページ以内で部会誌「応用水文 No.24」に「論文 (査読原稿)」もしくは「部会報告 (査読無し原稿)」として掲載され頒布されます。申込締切

は 10 月 7 日 (金)、原稿提出締切は 10 月 21 日 (金) です。講演申込時には講演題目、講演者名、連絡先 (住所、TEL、FAX、E-mail)、原稿種別をお知らせ下さい。なお、講演原稿の書式等については部会ホームページをご覧ください。か水文・水環境研究部会事務局へお問い合わせ下さい。

8. 研究会・情報交換会の参加申込み

氏名、連絡先 (住所、TEL、FAX、E-mail) および参加項目 (研究会・情報交換会) を記載の上、下記の水文・水環境研究部会事務局宛 FAX または E-mail でお申し込み下さい。参加申込締切は 11 月 11 日 (金) です。

9. 申込み・原稿送付および問合せ先

講演申込みおよび研究会・情報交換会参加申込み、原稿送付およびその他シンポジウムに関するお問合せは下記の水文・水環境研究部会事務局までお願いします。また、最新情報および詳細情報は部会ホームページ (<http://ealfor.ans.kobe-u.ac.jp/hydenv/index.html>) に掲載されます。

水文・水環境研究部会事務局

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350

宇都宮大学農学部農業環境工学科 松井宏之あて

TEL & FAX 028-649-8638

E-mail : matsuih@cc.utsunomiya-u.ac.jp

10. 宿泊申込み 宿泊の斡旋はいたしません。